

経済経営学部現代経営学科

科目コード	3G216		区 分	専門基礎			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	公共経営論		担当者名	小川 正人			○		
			実務経験との関連	海外の高等学校教員としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2単位	授業方法	講義	卒業要件	2 単位

<授業の概要>

近年の大きな経済社会の変化のなかで、地域や公共分野で活躍する人材の育成が求められているこのような社会を構成し活躍する人材を「シチズンシップ」は日本語では「市民」と呼ばれる。従来「市民」とは、一定の政治共同体（典型的には国家）の正式な一員を意味したが、今日では国境を越えた「地球市民」や「世界市民」が語られる。また「市民社会」も、政治社会という「公的領域」を意味する場合と市場という「私的領域」を表す場合を含みつつ、やはり現在ではグローバルな次元で語られる。本授業では、「市民」「市民社会」が何を意味しうのかを考え、現在そして未来における「地球市民」や「世界市民」あるいは「グローバル・シチズンシップ」の役割・活動について議論していく。その議論の中心となるのが、SDGsとは「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」である。2015年9月に国連で開かれたサミットで策定されたSDGsは、先進国と途上国が一丸となって地球が直面している課題（環境、経済、教育、社会等）の解決に向けた17の目標で構成されている。本授業ではSDGsの17の目標のうち、第3目標「すべての人に健康と福祉を」第12目標「つくる責任 つかう責任」第15目標「陸の豊かさを守ろう」に焦点をあて、農業をテーマに考えていく。

<授業の到達目標>

本授業では、公共経営の分野のうち、農林水産省中国四国農政局と連携し農業の問題を取り上げる。農林水産省が推進している政策でもある、みどりの食料システム戦略、有機農業、農福（農業＋福祉）について学んでいく。

<授業の方法>

対面授業だけでなく、ゲストによる講義や、農業の実地体験を含めて進めていく。各回のテーマに沿った課題はGoogle Classroomに期限までに提出する。質問等がある場合は、担当教員のメールもしくはGoogle Classroomでの特定コメントを利用してほしい。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度・学習意欲 40%、授業内課題40%、最終課題20%課題提出期間は1週間とする。
提出期限を過ぎた場合は採点の対象とならないので十分に気をつけてほしい。

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の説明、「公共経営」とは
2	我が国農業の現状と課題～まずは現状を 知る～	みどりの食料システム戦略～SDGsにつながる～
3	なぜ今、有機農業なのか	有機農業を知ろう
4	有機農業ボランティア活動	・おかやまオーガニック：岡山市北区御津（予定） ・（有）吉備路オーガニックワーク：総社市
5	パネルディスカッション	複数の農業者によるキャリア教育としての人生観話
6	生産資材の役割を学ぶ	農業における肥料の役割を学ぶ
7	ワークショップ	有機農業と生産資材の関係性を考える
8	農福連携事業者の思いを聞く	（合）ど根性ファーム：笠岡市（予定）
9	農福連携事業ボランティア活動	（合）ど根性ファーム （予定）
10	ワークショップ	健康から農業と福祉を考える
11	ワークショップ	各グループでテーマ決定
12	プレゼンテーション準備（1）	グループによるプレゼンテーション準備
13	プレゼンテーション準備（2）	グループによるプレゼンテーション準備
14	プレゼンテーション（1）	グループプレゼンテーション
15	プレゼンテーション（2）	グループプレゼンテーション

経済経営学部現代経営学科

科目コード	28102		区 分	専門基礎科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	経済学概論		担当者名	田口 雅弘			○		
			実務経験との関連	海外大学研究所研究員としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

経済学の基礎を学ぶ。具体的には、経済学の体系、経済学的ものの見方、経済学を学ぶ上での基礎知識、キーワードとなる経済用語、経済社会の構造などを学ぶ。

<授業の到達目標>

マクロ経済学、ミクロ経済学、その他の経済系専門科目を学ぶための基礎知識を身につける。

<授業の方法>

講義形式で行う。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

時々実施する確認テスト（60%）と最後のまとめテスト（40%）で評価する。

<教科書>

特になし

<参考書>

飯田幸裕・岩田幸訓（2022）「入門経済学〔第四版〕」創成社

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	経済学とは何か	経済学とはどういう学問かについて解説をおこなう。
2	グラフの見方・書き方	マクロ経済学、ミクロ経済学で使う基本的なグラフの見方・書き方を練習する。
3	国内総生産（GDP）	マクロ経済学の基礎となる国内総生産（GDP）の概念、その規模や世界各国GDPの比較をおこなう。
4	生産・所得・消費の決定	生産・所得・消費がどのようにして決まるかを考える。
5	貨幣	貨幣の成り立ち、貨幣の役割、さらには新しい貨幣（デジタル通貨、仮想通貨）について考える。
6	マクロ経済政策	経済をどのようにコントロールするか、財政政策、金融政策を中心に考える。
7	インフレ、デフレ、失業	インフレ、デフレの要因とその経済への影響、失業との関係などを考える。
8	ミクロ経済学の基礎	ミクロ経済学とは何かを解説する。
9	需要と供給	需要と供給の関係をさまざまな例をもとに考える。
10	需要と効用	消費者剰余、効用について考える。
11	供給と利潤	供給の決定、費用、利潤最大化について考える。
12	競争と独占	自由競争状態、独占状態について解説し、その問題点を考える。
13	市場の失敗、ゲームの理論	市場はなぜ失敗するのかを理論的に考える。また、ゲームの理論の基礎を学ぶ。
14	まとめ	講義全体のまとめを行う。
15	小テスト	講義内容確認のテストを行う。

科目コード	28106		区 分	専門基礎科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	簿記入門		担当者名	大池 淳一			○		
			実務経験との関連	実業系高等学校教員としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目及び後期開講の「簿記演習」と併せて日商簿記検定3級を履修者全員が受験し合格することを目指す科目である。そのため後期の「簿記演習」も履修すること。簿記を習得することは、就職活動に有利であり、また就職後の実社会で役立つので、経済経営学部の学生は全員履修することが望ましい。本科目では、簿記の入門編として、簿記の基本原理である取引の範囲・取引の8要素（費用・収益・資産・負債・資本）の認識、及び会計処理を学び、総合問題対策として問題集などを利用して、簿記の基本的な技術を習得するとともに、経済経営学部生全員で1つの目標に向かって頑張り、非認知能力の構成要素である「自分を高める力」「他者と協働する力」の育成を目指す。なお商業高校等で既に簿記を学習済みであっても是非とも履修してもらい集団の中でリーダーシップを発揮してほしい。

<授業の到達目標>

- ① 簿記の意義と役割を知り、複式簿記の基本原理を理解する。
- ② 基礎的な取引の仕訳ができるようになる。
- ③ 取引の仕訳から各帳簿への転記、試算表作成、決算までの簿記一巡の流れを理解する。
- ④ 日商簿記検定3級に合格するための基礎的な知識・技術を身につける。

<授業の方法>

- ① 授業の方法は、主に解説の後、問題演習を中心とする。
- ② 電卓演習・集計作業などの計算を行うので、各自電卓（関数電卓、スマートフォン不可）を持参すること。
- ③ 本科目では、問題演習の性質をもつため、個人学修によるところが大きい。
- ④ 本科目では、後期開講の「簿記演習」と併せて履修することで、日商簿記検定3級合格を目指す。本科目では記帳に関する技術を実践に身につけるため手書きを主体とする。
- ⑤ 解説動画をクラスルームに配信するため有効に活用すること。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

- ① 受講態度・学習意欲・授業への参加度 30%，② 小テスト 70%フィードバック：締切後、次の授業において解答を発表し解説する。

<教科書>

滝沢みなみ(2024/2/16)「2024年度版 スッキリわかる 日商簿記3級」TAC出版

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価方法、授業方針、簿記とは
2	仕訳①	商品売買①、数字の書き方
3	仕訳②	商品売買②
4	仕訳③	現金、普通預金、定期預金、当座預金
5	仕訳④	手形、貸付金・借入金
6	仕訳⑤	その他債権債務、その他費用、有形固定資産
7	総勘定元帳（略式）	勘定への記入
8	試算表の作成	試算表の問題演習
9	精算表	問題を使用した解き方の説明
10	決算整理仕訳①	問題を使用した解き方の説明
11	決算整理仕訳②	問題を使用した解き方の説明
12	財務諸表の作成①	日商簿記検定での解き方の説明
13	財務諸表の作成②	日商簿記検定での解き方の説明
14	問題演習	日商簿記検定での解き方の説明
15	まとめ	本科目のまとめとアンケート

経済経営学部現代経営学科

科目コード	3G200		区 分	専門基礎科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	ミクロ経済学		担当者名	赤木 邦江			○		
			実務経験との関連	一般企業経験者、キャリアコンサルタントとしての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業では、まず最初に「経済学」とは何かを経営学との比較から理解することから導入し、「経済学の十大原理」を基に、ミクロ経済学とマクロ経済学の基本を捉える。その上で、ミクロ経済学の基本的な考え方について、「市場の原理」「市場における需要と供給」「消費者選好」「最適配分」「ゲーム理論（競争とナッシュ均衡：最適解）」など、私たちの生活にも身近な現実の経済問題を理解することを目的とする。

<授業の到達目標>

- ・経済学と経営学の違い・繋がりを出来、ミクロ経済とマクロ経済の違いを正確に捉えることが出来る。
- ・ミクロ経済の対象である、市場を構成する家計や企業といった経済主体の選択行動の基礎理論と市場メカニズムについて理解が出来る。
- ・ミクロ経済学入門として必要な「基礎知識」「経済学的な考え方」「分析手法の基礎」を修得する。

<授業の方法>

- ・対面授業およびグループディカッション等によるアクティブラーニングを実施する。
GoogleClassroomを活用したレジュメや課題の配布、資料の共有など、ICTの活用に努める。
(GoogleClassroomにアップしたレジュメを印刷またはダウンロードすること)
- ・グループディカッション等により理解を深めるが、各学生個人が意見を持ち発表することを基本とする。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

リフレクション（振り返り）レポート 42% 学習意欲・授業態度 28%、最終まとめテスト 30%【配布レジュメ、手書きノート（コピー、写真コピー不可）等持ち込み可】

授業に関する質問は講義終了後、および教員のオフィスアワーで対応する。

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス：授業の進め方、成績評価の方法 イントロダクション：「経済学とは」	経済学と経営学 経済学の「十大原理」 ミクロ経済学とマクロ経済学
2	市場のメカニズム	市場とは 最適化と均衡 需要と供給（需要曲線と供給曲線） 最適配分、パレート効率性
3	予算制約	予算制約とは 財モデルの一般性 ニュメレール（標準財）
4	選好	消費者選好とは 無差別曲線群 限界代替率（MRS）
5	効用	基数的効用 効用関数 限界効用と限界代替率（MRS）
6	選択	最適選択 トレードオフ 正常財と劣等財
7	需要	所得－消費曲線とエンゲル曲線 通常財とギッフェン財
8	顕示選好	顕示選好の考え方 顕示選好から選好へ 無差別曲線の推定
9	スルツキー方程式	替効果 所得効果 自由競争の市場において、市場メカニズムが働かない事例
10	市場の失敗	自然独占 外部性 情報の非対称性
11	ゲーム理論(1)	「ゲーム理論」とは ナッシュ均衡

経済経営学部現代経営学科

		ゲーム理論の基本「囚人のジレンマ」
12	ゲーム理論(2)	支配戦略 残業ゲーム 合理的な豚
13	ゲーム理論(3)	戦略型ゲーム サッカーのペナルティーキック 純粋戦略と混合戦略「チキンゲーム」
14	総括：「ミクロ経済学」の基本理解確認	授業の振り返り：「ミクロ経済学」の基本 全体のまとめ
15	期末試験：「ミクロ経済学」理解度確認まとめテスト 全体の振り返り 内容	「ミクロ経済学」理解度確認まとめテストの解答・解説 これからの「ミクロ経済学・市場のメカニズム」について 受講の自己評価

経済経営学部現代経営学科

科目コード	3G201		区 分	専門基礎科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	マクロ経済学		担当者名	歌代 哲也			○		
			実務経験との関連	証券会社社員、商品取引所研究員としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

本科目では、国内総生産、物価、利子率、失業率等の国(または地域)を単位とした経済指標・経済活動を中心に、日本及び世界経済におけるマクロ経済指標の現状を理解し、それぞれの指標がどのような意味を持ち、どのような関連性があるかについて学ぶ。マクロ経済学における政府の役割、財政・金融政策の役割・必要性を理解し、これらの政策の効果を実際の経済データ等を用いて学ぶ。日本及び世界経済が抱える経済問題について、マクロ経済学の考え方で思考できることを目的とする。

<授業の到達目標>

本科目では、マクロ経済学の基本的な考え方を学ぶとともに、実社会の様々な課題に対して経済学の視点からアプローチすることでマクロ経済全体の動きを理解しようとする、経済学的発想・思考の習得を目指す。具体的には、マクロ経済学の基礎理論を正しく理解することを第一の目標とし、マクロ経済政策、失業や物価問題、経済成長など、今日の日本社会が抱える経済現象に焦点を当て、マクロ経済学の視点から分析・考察して自分なりの見解を導き出すことを第二の目標とする。

<授業の方法>

本講義は講義形式で行う。講義レジュメや各種資料は電子データ(pdfデータ)で配布するため、それらの参照用に、学生自身の情報端末(パソコンやタブレット)の持ち込み・利用を必要とする。また、分からない用語や内容については各種検索webサイトを利用して、授業中でも適時情報検索してもらう。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

受講態度・学習意欲30%、課題20%、レポート50%で評価する。

<教科書>

家森信善「【ベーシック+】マクロ経済学の基礎(第2版)」中央経済社

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	マクロ経済学を楽しむ方法
2	経済規模を測るGDP(1)	GDPとは何か、名目と実質、経済成長率
3	経済規模を測るGDP(2)	付加価値、三面等価の原則、GNI
4	供給サイドから見るGDP	潜在経済成長率、総要素生産性
5	需要サイドから見るGDP	寄与度、GDPの支出面
6	需要・供給と日本経済	新古典派とケインジアン考え方
7	生産・所得・需要の決定と消費関数	乗数効果、消費関数、45度線と所得水準
8	投資・政府支出の導入と国際経済への拡張	投資と政府支出、ISバランス
9	貨幣が持つ機能	貨幣とは、貨幣の機能
10	マネーサプライとハイパワードマネー	信用乗数、マネーストック
11	貨幣供給と貨幣需要	貨幣供給と物価、貨幣数量式、貨幣需要とは
12	マクロ経済政策	政策目標と政策手段、財政政策と金融政策
13	インフレーションと失業	インフレーションとは、失業率、フィリップス曲線
14	経済成長の理論	資本蓄積、労働人口、技術進歩、ハロッド=ドーマーの理論
15	総括	経済学と経営学

経済経営学部現代経営学科

科目コード	65019		区 分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	公務員と法		担当者名	平野 正樹			○		
			実務経験との関連	公務員（大蔵省官僚）としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	3	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目では、市場機構の不完全性である市場の失敗、中でも公共部門の役割についての経済学的かつ制度論的な内容を理解することを目的とする。これを基に現代の経済的かつ財政的課題についてのケース・スタディーを通じて、公的主体の意義を学ぶ。そして、本科目を受講した学生が国内外の経済・財政問題に対して、コメントできるようになることを目途に授業を展開する。

<授業の到達目標>

授業を通じて、経済における「公的部門」と「民間部門」の相違とそれぞれの主体である「公」「民」の行動目的についての理解を図る。また、市場経済を中心とした経済社会で生じる諸問題(市場の失敗)について、その原因を分析するとともに国家財政や地方財政が抱える制度論的課題にも言及する。そして、経済・財政問題の改善・解決策に向けて公がとるべき諸政策について何らかのコメントができるようになることを一つの目標とする。

<授業の方法>

その都度、資料を配布する。板書を中心とするが、内容によってはPPT等で視覚的に分かりやすい方法も活用する。授業の理解度を高めるため、適宜レポートの提出を課す。各講義の終わりにディスカッションを行う予定。各講義の終わりに、講義内容を踏まえた双方向のディスカッションを行う予定。講義内容によってはその理解度を確認するため、PPTの活用などによる双方向での授業を予定。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

要素：有。
講義内容の理解度を確認するため、ディスカッションやPPTの活用などによる双方向での授業を実施する。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題(小テスト)80%と出席率等20%で成績評価をする。なお、課題(小テスト)については模範解答を提示・説明する。

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	市場経済とパフォーマンス 経済の仕組みと公的部門	経済の仕組み 市場経済と公共部門の役割 経済学と経営学との相違など
2	市場の失敗とは	市場における外部性と公共財の存在
3	財政学と財政の三機能(Ⅰ)	財政学とは何か 財政学の誕生と発展
4	財政学と財政の三機能(Ⅱ)	資源配分機能 所得再分配機能 経済安定化機能
5	国と地方の財政の姿	国家財政・地方財政の歳入・歳出予算 予算の編成過程など
6	公共サービスと財政のかかわり(Ⅰ)	公共財の性質 公共財供給の効率性
7	公共サービスと財政のかかわり(Ⅱ)	多数決と公共サービス 公共財の最適供給と公平な負担
8	租税の基礎理論	租税原則と租税体系 効率と公平のトレード・オフ
9	所得課税	所得税と住民税の仕組み
10	消費課税	消費税の仕組み 従価税と従量税
11	資産課税	固定資産税と相続税の仕組み
12	国債と地方債	国債と地方債の種類 公債の負担
13	裁量的な財政政策とマクロ経済	乗数効果 財政政策の有効性
14	地方交付税と地域間所得再分配	地方交付税と国庫支出金の仕組み
15	総括	財政実態の国際比較

経済経営学部現代経営学科

科目コード	35217		区 分	コア科目スポーツビジネス			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	スポーツ経営学入門		担当者名	平岡 師玄哉			○		
			実務経験との関連	スポーツクラブ・健康増進施設運営会社の社員としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

私たちが住んでいる社会の様々な部分に経営管理が存在することを理解し、スポーツの世界にも経営管理が存在することを理解する。さらに、その経営管理の立場から「豊かなスポーツ生活」の実現をするために、その理念と方法を学習することに重きを置く。特に、運動者の立場に立った経営管理の考え方を重視するとともに、現代スポーツ社会における諸問題を中心に、具体的な実践につながるような授業を展開していく。

<授業の到達目標>

地域等のスポーツ振興に必要となるスポーツ経営の基礎理論及び実践的方法論を学習する。特にスポーツ経営の諸問題を参考にしながら、経営学的な考え方をできるようにする。

<授業の方法>

講義とグループワークを織り交ぜながら行っていく。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業参加態度 30％、 授業内容についての課題 40％、レポートの課題 30％

<教科書>

畑攻・小野里真弓「基本・スポーツマネジメント」大修館書店

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の概要説明・評価方法の説明
2	スポーツマネジメント(経営)がめざすもの	スポーツとマネジメント(経営)
3	スポーツマネジメントの方法	スポーツマネジメントの基本的使命
4	マネジメント(経営)組織の理念	マネジメント(経営)と理念の関係性
5	組織における人間観	クールアプローチとウォームアプローチ
6	マネジメントとマーケティング論	マーケティングの基本的な仕組み
7	スポーツプロダクト	スポーツサービスとスポーツベネフィット
8	スポーツ事業と運動生活Ⅰ	運動の成立条件としてのスポーツ事業
9	スポーツ事業と運動生活Ⅱ	運動生活と各スポーツ事業の特色とマネジメント
10	スポーツリーダーシップとマーケティングの基本	競技スポーツ集団としての組織論と消費者の認知行動過程
11	スポーツ政策	スポーツ政策の基本スタンスとわが国の主なスポーツ政策
12	スポーツの普及・振興を目指してⅠ	アスリート育成とマネジメント
13	スポーツの普及・振興を目指してⅡ	ダンス指導とマネジメントとフィットネスクラブのマネジメント
14	スポーツの発展・スポーツ教育の充実を目指して	女性スポーツとマネジメント、スポーツ地域マネジメント
15	スポーツ経営学入門のまとめ	スポーツ経営学の基本的なまとめ

経済経営学部現代経営学科

科目コード	37506		区 分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	スポーツマーケティング論		担当者名	小堀 浩志			○		
			実務経験との関連	スポーツクラブ・健康増進施設運営会社の社員・役員としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

スポーツマーケティングは近年、オリンピックをはじめ様々なスポーツに導入され、人とスポーツをより活発化させる機能として、大きな役割を果たしている。本講義では、消費者に求められているスポーツの本質的価値はどのようなことなのか、マーケティングとはどのようなことなのかを考え、その上でスポーツマーケティングの歴史と発展その特性を知り、またスポーツマーケティングの幅広い要素と機能を実例を通じて学ぶことで、その本質を理解することを目的とする。また講義の終盤では、国内のスポーツマーケティングの実例も紹介する。

<授業の到達目標>

スポーツマーケティングの特性を理解する。スポーツマーケティングの幅広い機能を理解する。プロスポーツを中心にスポーツマーケティングの最新事例を知る。

<授業の方法>

講義形式を基本とし、少人数でのグループワークを展開していく。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業参加態度 30% 授業課題(毎回の小テスト) 30% レポート課題 40%

<教科書>

特になし

<参考書>

原田宗彦 藤本淳也 松岡宏高 編著者(2020年9月1日)「スポーツマーケティング改訂版」大修館書店

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	講義概要、成績評価方法の説明
2	スポーツマーケティングとは何か?	スポーツとマーケティングの概念
3	スポーツマーケティングの歴史と発展	スポーツマーケティングの誕生とその発展
4	スポーツプロダクトの特性	するスポーツとみるスポーツ、サービスマーケティング
5	スポーツ消費者の特性	スポーツ消費者の定義と意思決定プロセス
6	スポーツマーケティングのプランニング	リサーチ、STP、マーケティングミックス
7	プロモーション	広告、PR、イベント戦略
8	スポーツ・スポンサーシップ	スポンサーシップの概念、発展と現状、効果
9	ブランディング	ブランド戦略、ブランドエクイティとは何か、ライセンスリング
10	CRM(カスタマー・リレーションシップ・マネジメント)	顧客との関係、データベースマーケティングの未来
11	価格戦略	スポーツと価格、需要と供給、価格設定
12	マーケティングリサーチ	リサーチの意味、方法、分析と活用方法
13	事例紹介①国内スポーツ	プロ野球、Jリーグ、Bリーグのマーケティング事例
14	事例紹介②国内スポーツ	プロチームマーケティング事例
15	講義のまとめ	講義全体を通じてのまとめ

経済経営学部現代経営学科

科目コード	54005		区 分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	資格検定対策Ⅴ（ICTスキル系）		担当者名	岡田 健志			○		
			実務経験との関連	情報系一般企業経験者としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

現代の社会では様々な業種・職種において、効率的な業務運用、成果報告の手段としてのコンピュータ利用は今や必須のスキルである。本科目ではコンピュータリテラシーⅠおよびⅡで修得した知識を活かし、コンピュータ操作の習熟度を高めるとともに、Word、Excel等のアプリケーションを効果的に使いこなす技法を身につけることを目的に、Microsoft社が提供・実施するOfficeアプリケーションの資格検定試験MOS（Microsoft Office Specialist）の資格取得を目指す。

<授業の到達目標>

資格試験対策勉強を通じて、PC操作の習熟を目指すとともに、ビジネスアプリケーションの重要性と業務効率性との関係について学ぶ。また、MOS試験の概要を理解するとともに、試験に合格するための力を身につける。

<授業の方法>

MOS試験のうち、Word、Excelの3科目を受験対象科目として講義を行う。授業期間は前・後期の通期のため、概ね2週に1回程度の進度である。それぞれの試験の出題範囲の各テーマごとに解説をオンデマンドで配信し、問題演習で理解度をチェックする。また、教科書に付帯の模擬練習問題を各自で実施して理解度を高める。合格するための勉強方法についても適宜解説する。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

問題演習の提出 40%、模擬試験問題の達成状況 60%で評価する。

<教科書>

富士通エフ・オー・エム「MOS Excel 365&2019 対策テキスト&問題集」FOM出版

富士通エフ・オー・エム「MOS Word 365&2019 対策テキスト&問題集」FOM出版

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	MOSの解説、試験概要
2	Word練習 (1)	Word文書管理
3	Word練習 (2)	文字、段落、セクション、書式設定
4	Word練習 (3)	表、リストの管理
5	Word練習 (4)	参考資料の作成管理
6	Word練習 (5)	グラフィック要素
7	Word練習 (6)	共同作業の管理
8	Word練習 (7)	Wordの出題範囲と模擬試験
9	Excel練習 (1)	ワークシート・ブックの管理
10	Excel練習 (2)	セルのデータ管理
11	Excel練習 (3)	テーブルのデータ管理
12	Excel練習 (4)	数式と関数
13	Excel練習 (5)	グラフ管理
14	Excel練習 (6)	Excelの出題範囲と模擬試験
15	理解度確認	Word・Excelの出題の確認と攻略ポイント

経済経営学部現代経営学科

科目コード	54002		区 分	キャリア形成科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	資格検定対策Ⅰ（語学系）		担当者名	溝越 隆興			○		
			実務経験との関連	国内大学附属日本語養成校職員、海外大学の日本語教員としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業は、海外または国内での1～2週間の短期研修を通じて、語学力・異文化理解・行動力・課題解決力など、グローバル社会で必要とされる力を実践的に育成する。研修前には、グローバル人材の定義や異文化理解、語学表現などの基礎を学び、研修後には成果の振り返りとプレゼンテーションを行う。

<授業の到達目標>

- ・グローバル人材に求められる資質・能力を理解する。
- ・研修先の文化・社会背景に関する基礎知識を身につける。
- ・語学的・文化的課題に対する主体的な対応力を高める。
- ・研修体験を振り返り、成果をプレゼンテーションとして発信できる。

<授業の方法>

対面による講義とグループワーク、研修（海外・国内）、帰国後のプレゼンテーションを組み合わせた実践型授業。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

- ・授業参加・課題提出（30％）
- ・研修中の活動・態度（30％）
- ・成果発表（プレゼンテーション）（40％）
- ・フィードバック方法：授業内での口頭フィードバック、ピアレビュー、教員講評、研修記録へのコメントなど

<教科書>

Joseph Shaules「Intercultural Communications：Student Book」アプリコット出版

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業概要、目的説明、自己紹介、グループ分け
2	グローバル人材とは何か①	世界で求められる人物像、SDGsと関連づけた考察
3	グローバル人材とは何か②	必要なスキルとマインドセット、事例研究
4	異文化理解	異文化との接し方、多様性と共生の視点
5	語学トレーニング①	基本表現、自己紹介、日常会話
6	語学トレーニング②	ロールプレイ（空港、買い物、ホームステイ等）
7	研修先の理解①	フィリピン・韓国の社会と文化背景
8	研修先の理解②	アメリカ・イギリス・フランスの文化比較
9	安全・健康管理	危機管理、保険、健康・食文化、現地のルール
10	目標設定	個人・グループの目的確認、研修準備
11	海外・国内研修①	現地での語学学習、文化体験、施設訪問等
12	海外・国内研修②	同上（中間評価・活動記録）
13	振り返りと準備①	写真・体験の整理、発表構成の検討
14	発表準備②	スライド・原稿作成、リハーサル
15	成果発表会	プレゼンテーション、相互評価、まとめ